

ドキュメンタリー作品『若者は山里をめざす』上映会

自然を慈しみ、助け合いながら生きる、

東秩父村に暮らす若者たちの3年を追ったドキュメンタリー

都心から僅か60km、バスと電車で80分、標高600メートルの山々が連なる山間に、東秩父村がある。「埼玉県の消滅可能性都市 No.1」に指定されたこの村に、都会暮らしをやめ移り住む若者たちが増え始めた。村出身の西沙耶香さんは、コンビニもないこの村から出たいと高校卒業後上京。だが、ふるさとを消滅させたくないと仕事をやめ村に戻ってきた。東京出身の高野晃一さんは、地域起こし協力隊に応募して採用された元銀行員。村の特産品であるノゴンボウに着目し村の特産品として開発を進め、地域に溶け込み移住を決意した。他にも和紙職人を目指す青年や芸大卒の女性、鬼太鼓座の若者たちも、村に住む戦前・戦後を生きた先輩たちと交流しながら生きる知恵を身につけていく。

現代政策学部土屋政策ゼミナールでは、『若者は山里をめざす』の上映会を下記の通り企画しました。本作の舞台は、埼玉県内唯一の村、東秩父村です。2024年1月に相互連携協定を本学と締結した東秩父村では、消滅可能性都市に指定される他方、多くの若者が活躍し、これまでの文化が継承されるのみならず、新たな文化が創造されています。本作の鑑賞を通じて、山間地域の「今」と「これから」を考えます。大変お忙しいとは存じますが、ご参加いただけますと幸いです。

日時：7月10日5時限（17時～）

会場：23-210 教室

参加費：無料

上映会冒頭に原村政樹監督と奈良澤由美
現代政策学部長との対談実施



申込先：<https://forms.gle/tiQJnF5WE4stVHQ39>

問い合わせ先：土屋正臣（現代政策学部）
masaomi1@josai.ac.jp